

魅力的な駅前空間を創出する三宮クロススクエア・ 人の賑わいと回遊性を創出するデッキ

1. 神戸三宮駅前空間における回遊動線
2. 空間の利活用

1. 神戸三宮駅前空間における回遊動線

1. 1 基本的な考え方・論点

基本的な考え方・論点

- 広域交通拠点へのアクセス性に優れる神戸三宮駅前空間では、「三宮クロススクエア」が新神戸駅、神戸港、神戸空港から訪れる人の交流空間として機能
- 神戸三宮駅前空間の東側に位置する「再開発ビル」には、低層階に鉄道駅と一体となりながら交通結節機能を担う「新バスターミナル」、上層階に業務・宿泊・商業・文化・芸術などの多様な都市機能が集積
- 交通結節点としてのポテンシャルを活かしながら、空間や都市機能を連携させる新たな人の流れを生み出すことで、神戸三宮駅前空間が一体となった賑わいを創出

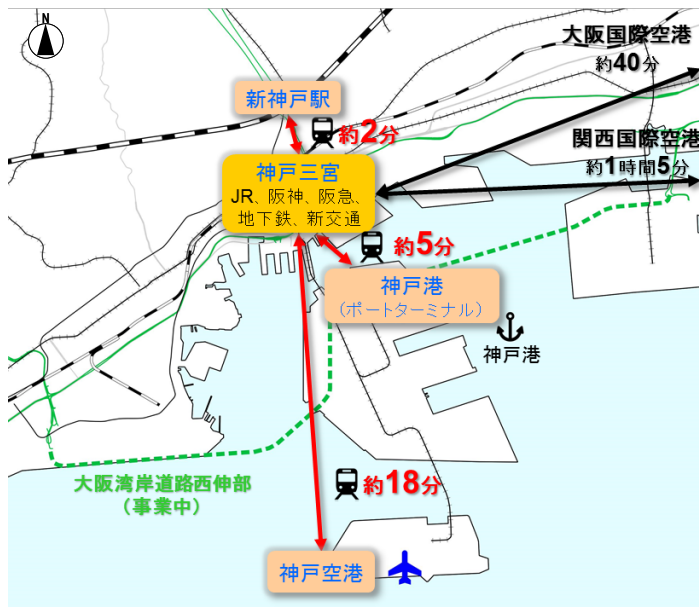
⇒論点:バスターミナルと「三宮クロススクエア」が連携した空間整備や回遊性の検討

1. 神戸三宮駅前空間における回遊動線

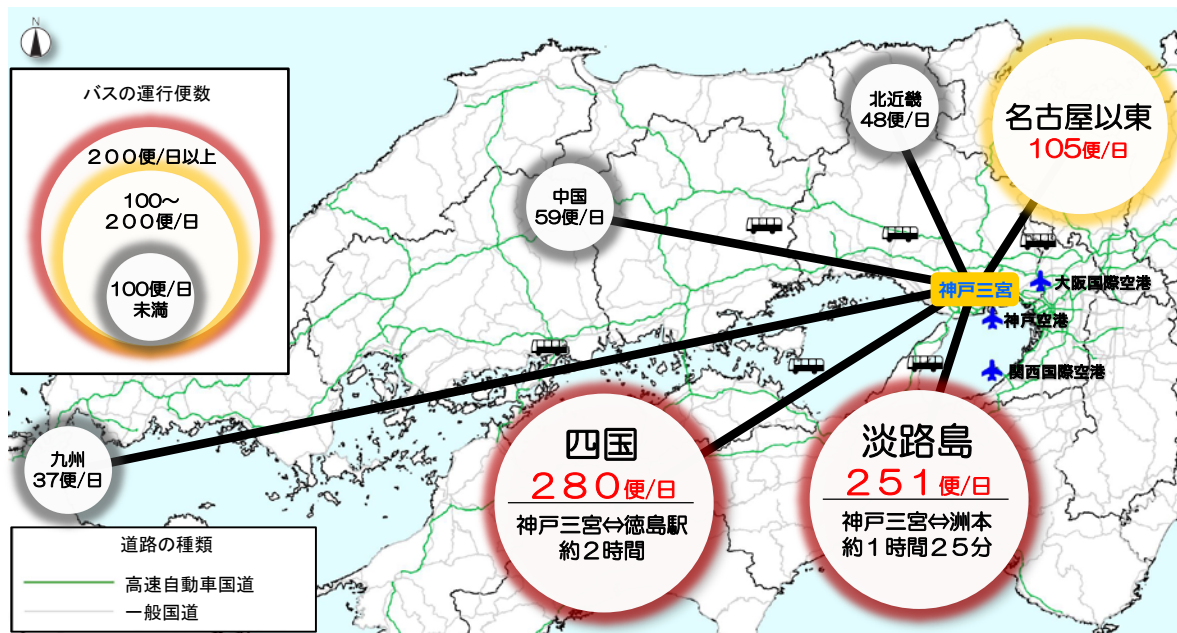
1. 2 検討にあたっての条件と課題

神戸三宮は、新神戸駅や神戸空港等へのアクセス性に優れるとともに、四国や淡路島等の西日本へ向かう高速バスのゲートウェイとして機能しており、交通結節点としてポテンシャルが高い。

■ 神戸三宮から各交通拠点への所要時間



■ 神戸三宮を発着する高速バスの運行便数・主要な行先までの所要時間



※H31.4時点

出典) 事業計画【中間とりまとめ】(R1.8)

1. 神戸三宮駅前空間における回遊動線

1. 2 検討にあたっての条件と課題

神戸三宮駅前空間では、東西の国道2号や中央幹線、南北の税関線といった自動車中心の空間構成による人の動きの分断や、動線上の段差等、交通結節点として課題が存在している。

■ 神戸三宮駅前空間における回遊動線の現状と課題



南西側の「まち」から新バスターミナル方面への移動が遠回りとなっている

横断歩道が無く、東西の人の動きが分断

歩行者が歩きたくなくなるにぎわいの「まち」

商業・業務を中心とする落ち着いた「まち」

新バスターミナル(再開発ビル)整備エリア
業務・宿泊・商業・文化・芸術などの多様な都市機能が再開発ビルに集積

東側に向かうにつれて、歩行者通行量等が減少

道路が南北の人の動きの円滑性を阻害



※2019年12月時点では、JR駅ビル建替えのため存在せず

1. 神戸三宮駅前空間における回遊動線

1. 2 検討にあたっての条件と課題

交通結節点としてのポテンシャルを活かすために、多様な都市機能が集積する再開発ビルおよびバスターミナルと各駅、周辺の「まち」をつなぐ人中心の回遊動線を検討する必要がある。

■ バスターミナル～まち間との回遊動線を設定する上での条件

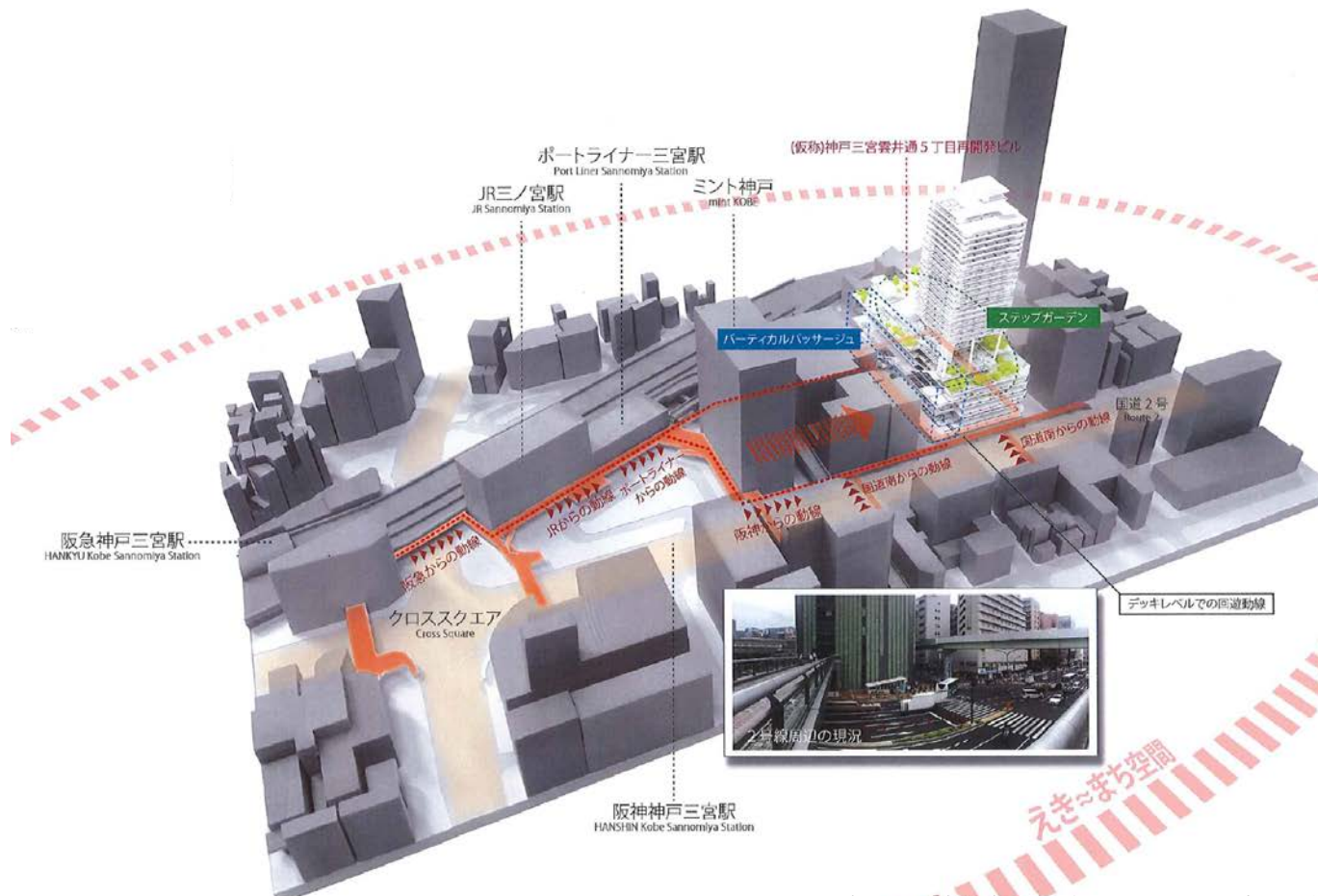
項目	内容
動線の 設定条件	<p><利便性></p> <p>(デッキ)</p> <ul style="list-style-type: none">• 鉄道駅とバスターミナルなど「<u>交通施設</u>」<u>同士</u>をわかりやすくつなぐ• <u>道路で分断された南北</u>をつなぐ <p>(地上)</p> <ul style="list-style-type: none">• 「<u>交通施設</u>」と「<u>まち</u>」、「<u>まち</u>」と「<u>まち</u>」をつなぐ <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none">• デッキ動線と地上動線の<u>連続性</u>に配慮する• 民間施設を活用しながら地下・地上・デッキの3層ネットワークとして整備するとともに、それらをボイドでつなぐことにより、<u>上下移動しやすい空間</u>とする• パーソナルモビリティなどの<u>新たなモビリティの将来的な導入</u>を考慮する <p><快適性></p> <ul style="list-style-type: none">• 段差の無いルートの設定や案内サイン導入等、<u>ユニバーサルデザイン</u>に配慮する• バスターミナル～各駅の<u>乗換え動線との錯綜</u>に配慮する• <u>歩行者の通行量、沿道の建物、視認性</u>に配慮した幅員や構成とする• <u>賑わいを創出する場所、憩いを創出する場所、視点場、地上の賑わいと</u>のつながりを考慮する <p><安全性></p> <ul style="list-style-type: none">• <u>自動車との交錯</u>を回避する <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none">• 事業が進められているJR新駅ビルなど、<u>周辺の開発との連携</u>を図る

1. 神戸三宮駅前空間における回遊動線

1. 3 賑わい・滞留場所の配置および回遊動線

神戸三宮駅前空間が一体となった賑わいを創出するため、新バスターミナルと周辺のまちとの回遊を促進する動線を設定する。

■ 神戸三宮駅前空間に予定されている再開発ビルおよびデッキのイメージ



※イメージであり、整備内容を決定するものではない

出典) R1. 9「(仮称)神戸三宮雲井通5丁目地区都市再生事業の都市計画提案について」
雲井通5丁目再開発会社 記者提供資料

1. 神戸三宮駅前空間における回遊動線

1. 3 賑わい・滞留場所の配置および回遊動線

歩行者が円滑に回遊できる通行機能に加え、神戸らしさを感じられる憩いや賑わいを創出する空間や、まちを望む視点場としての機能など、場所ごとに求められる機能について検討を進める。

■ 神戸三宮駅前空間における賑わい・滞留場所および回遊動線（新バスターミナルⅡ期完成時）



2. 空間の利活用

2. 1 基本的な考え方・論点

基本的な考え方・論点

- 「三宮クロススクエア」の東側のゾーンは、日常的な賑わいや大規模なイベントにも対応できる「にぎわいゾーン」(「えき」のエントランス空間)として位置づけられている

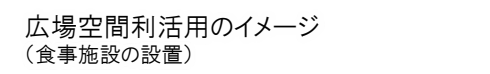
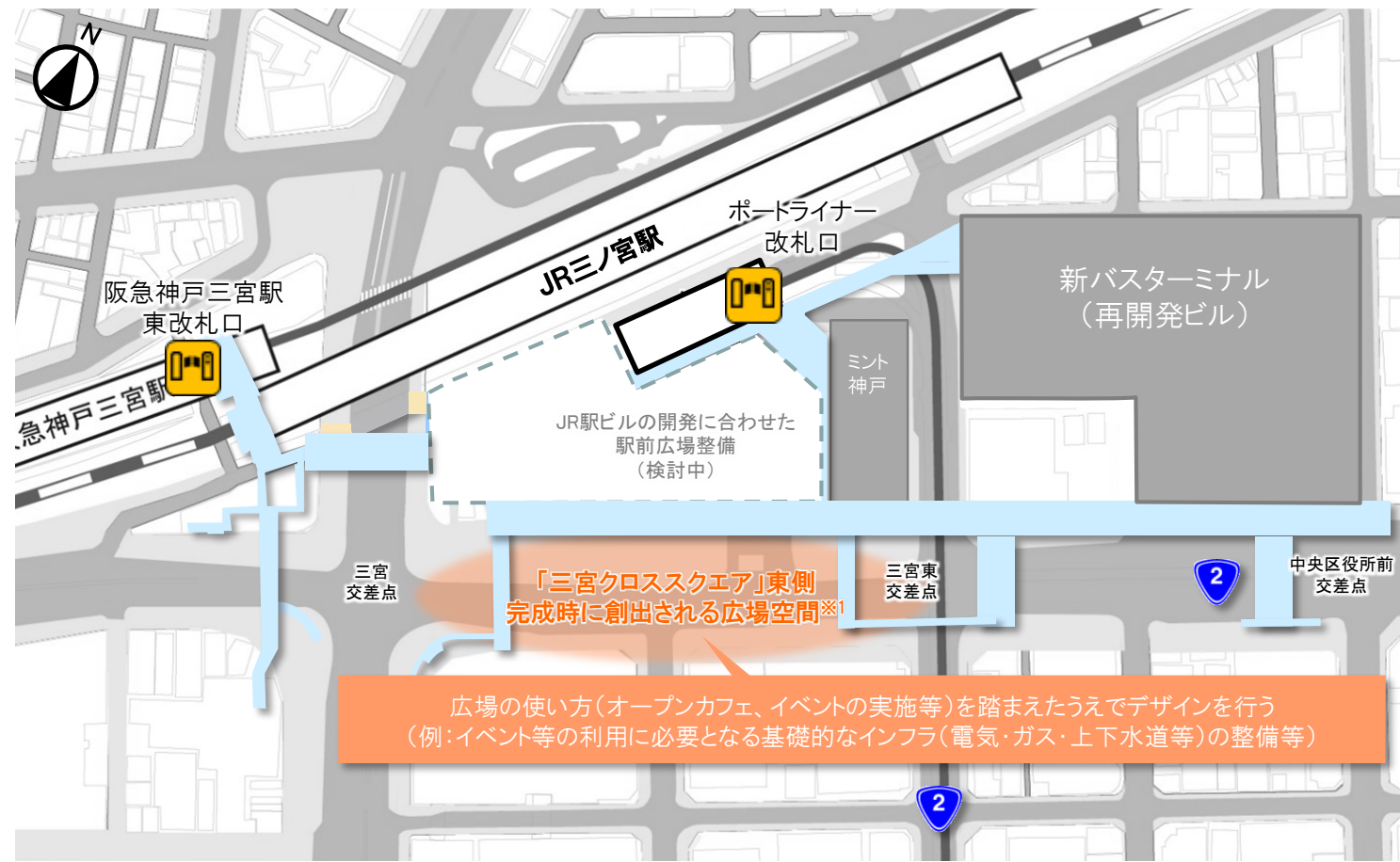
⇒論点:「三宮クロススクエア」東側の活用方法

2. 空間の利活用

2. 2 空間の活用方法 (案)

三宮クロススクエア東側では、エリアマネジメント組織の活用等によるオープンカフェ、イベントの実施等により、賑わいを創出する。

■ 新バスターミナルⅡ期完成時の空間の利活用方法 (案)



※1: 将来的には「にぎわいゾーン」として位置付け
※2: イメージであり、整備内容を決定するものではない